

鮮烈にして、ユーモラス！
高知で14年ぶりの大絵金展！

絵金の絵は
食いつくきに、
気をつけよ



没後150年

誦られる絵金

2026年10月31日(土)
2027年1月11日(月・祝)

休館日：12月27日～1月1日

【開館時間】9時～17時(入場は16時30分まで)

*初日は10時からの開館式終了次第、展示室入場可

【会場】2階 展示室B・C

【観覧料】一般前売1,200円、一般当日1,500(1,200)円、
大学生1000(800)円、高校生以下無料

※11月3日(火)【開館記念日】は無料。米()内は20名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。※(公財)高知県文化財団のキャンパスメンバーズ加入校の学生は学生証の提示で無料。

前売券販売所 県立美術館ミュージアムショップ、金高堂書店本店、こうち生活協同組合(ユープよしだ、ユープかもべ)、県庁生協売店、ローソンチケット[Lコード：62407]

主催：高知県立美術館(公益財団法人高知県文化財団)、さんさんテレビ
後援：高知県教育委員会、香南市教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、
NHK高知放送局、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送
協力：読売新聞社
助成：芸術文化振興基金

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI



没後150年

語る絵金、語られる絵金

高知県下各地の夏の祭りに飾られ、闇夜の中、蝋燭や提灯のあかりで鑑賞する「芝居絵屏風」^{しばい えびょうぶ}。その独特の絵画様式を確立したのが、幕末土佐の絵師、絵金^{えきん}（1812-1876）です。絵金は浄瑠璃や歌舞伎などのいわゆる「語り物」の絵画化に優れた才能を発揮しました。本展ではその代表作を通じて絵金の軽妙でユーモラスな魅力を紹介するとともに、高知の人々の「語り」によって受け継がれてきた「絵金文化」の歴史を紐解きます。戦後の高知において、長らく秘蔵されてきた絵金作品を地域の外に持ち出し発信することに貢献した美術家・浜口富治と、赤岡の地域史研究や文学的素養を基礎に絵金作品の出自を語り起こし、赤岡の祭礼における語りの手法を確立した詩人・近森敏夫ら赤岡町出身の二人の活動をはじめ、近年の動向も併せてご紹介します。2023年度に修復を実施した絵金の「笑い絵」^{わらいえ}の傑作《放屁合戦図》《夜這い図》もお披露目。幕末期から現代まで変化しながらも連綿と受け継がれてきた高知の絵金文化を今後も伝えていくために、私たちは、そして皆さんは、何を語っていくのか？その未来を考える展覧会です。

※エロティックな題材に滑稽味を盛り込んで描かれた絵



絵金《力士図》高知県立美術館蔵

【絵金（1812-1876）】

本名・金蔵。号・洞意など。文化9年（1812）、高知城下新市町の髪結いの子として生まれ、土佐で狩野派を学び優れた画才を示す。やがて江戸に出て土佐藩御用絵師の前村洞和に師事し研鑽を積み、帰国後は土佐藩家老・桐間家の御用絵師となるも、その後「廣作事件」に巻き込まれ失脚し、町絵師になったと伝えられている。風俗図・職・絵馬、笑い絵の表現にも秀で庶民の需要に応えた金蔵は、「絵師・金蔵」略して「絵金」の通称で親しまれ、「絵金」は高知県内では絵師全般を指す呼称としても流布した。明治9年、高知市で没す。



上 絵金《子供四季風俗図》高知県立美術館蔵

左 手長足長絵馬台 八王子宮（香美市）蔵／絵金、河田小龍による芝居絵屏風5点 香美市立美術館寄託
*すべて香美市指定文化財

関連イベント

1. 記念講演会「絵金文化の歩み」^{無料・予約不要}

絵金研究の第一人者が、絵金を取り巻く文化についてお話しします。

10月31日（土）13:30～14:30

講師 横田恵（アクトミュージアム学芸員）

会場 1階 講義室

2. ギャラリートーク^{無料・予約不要}

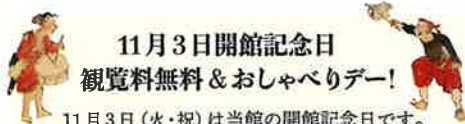
11月は「土佐赤岡絵金祭り」で「絵金少年」として活躍している香南市出身の中学生、齋藤颯介さんがイチャオシ作品をご紹介します。12月は本展担当学芸員が展覧会全体をめぐりお話しします。

① 11月8日（日）13:30～14:30

話し手 齋藤颯介（絵金少年） 会場 展示室B

② 12月13日（日）10:00～11:00

話し手 中谷有里（本展担当学芸員） 会場 展示室B・C



11月3日開館記念日
観覧料無料＆おしゃべりデー！
11月3日（火・祝）は当館の開館記念日です。当館主催展覧会はすべて無料でご覧いただけることに加え、会話しながら作品をご覧いただくなど、どなたでも気軽にそれぞれの鑑賞スタイルで美術館を楽しんでいただける日です。

《放屁合戦図》（部分） 諸木地区自治会蔵

3. みんなで楽しむ絵金！

① みんなでつくる美術鑑賞ワークショップ^{無料・要予約}

共催：文化庁、厚生労働省、高知県、よさこい高知文化祭2026 高知県実行委員会

目の見える人、見えない人、見えにくい人、障害の有無にかかわらず、「見えること」、「見えないこと」を言葉にしながら作品を鑑賞するワークショップです。

11月15日（日）10:00～12:30

ナビゲーター 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ スタッフ

会場 展示室B・C 定員 12名程度

申込方法 11月3日（火・祝）までに申込フォームまたは電話【088-866-8000】でお申込みください。



② 手話とアートのおしゃべり時間

「絵金の作品を手話で表現してみよう」^{有料・要予約}

協力：手話カフェ

手話を使いながら、みんなで絵金作品を鑑賞するプログラム。手話通訳サポートあり。手話経験不問、どなたでもご参加いただけます。

11月29日（日）13:30～15:30

講師 尾崎里美（手話カフェ講師・聴覚障害者）

会場 展示室B、ミュージアムカフェ「マルク」

定員 10名程度

参加費 カフェ代（現地清算）

申込方法 申込フォームにてお申込みください。



4. 素浄瑠璃＆トーク^{有料・要観覧券・要予約}

「義太夫奏者が語る、絵金の世界——伽羅先代萩」

絵金の芝居絵屏風のワンシーンを素浄瑠璃で実演。「語る」ことで見えてくる絵金の世界についてお話しします。

11月22日（日）18:00～19:00（19:30閉館）

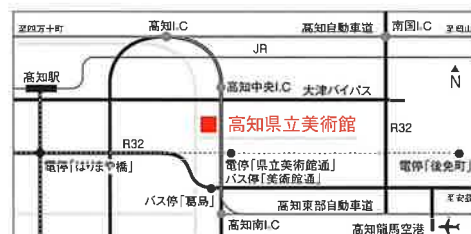
出演 竹本美園（義太夫奏者）

会場 展示室B 定員 20名

参加費 500円、要観覧券

申込方法 お電話【088-866-8000】にてお申込みください。

美術館ホール秋の定期上映会「魅魅魍魎映画祭」は絵金関連作品を上映！【11月1日（日）、3日（火・祝）】その他、お子様連れの方、学校の先生に向けたサービスも実施。詳細は本展webサイトをご覧ください。



交通案内

○とさでん交通路面電車「はりまや橋」から、「ごめん」「領石通」または「文珠通」行きで15分、「県立美術館通」下車徒歩5分。
○高知龍馬空港から、空港連絡バス「葛島」下車徒歩15分。○車・タクシーをご利用の場合は、JR高知駅から20分、高知龍馬空港から約20分、高知自動車道高知インターから10分、高知中央インターから3分。

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

〒781-8123 高知市高須 353-2 TEL:088-866-8000 moak.jp